

平成 20～25 年度用 高等学校外国語 英語Ⅱ 教科書調査研究の観点

発行者番号・略号	教科書名	記号・番号
9 開隆堂	Revised Edition ENGLISH NOW II	英Ⅱ042

1 内容

① 題材内容

- ◎ 題材は英米に偏ることなく一貫してグローバルな視点を保ち、「日常生活」「食文化」「科学」「音楽」「冒険」「ボランティア」「環境保護」「人権問題」など多様な分野のものを取り上げている。情報としてもたいへん興味深く、学習者の発達段階に配慮したものになっており、楽しさの中にも次代を担う今の若者たちのためにたいへん有益な読み物になっている。
- ◎ 「携帯電話」(1 課)、「難病の子どもの夢をかなえるボランティア基金」(3 課)、「オランウータンの行動に見る文化発祥の事例」(4 課)、「『もったいない』を合い言葉に環境保護を訴えるマータイさん」(5 課)、「冒険家堀江謙一さんのヨットによる世界一周航海」(7 課)、「障害を乗り越えて生きる歌手ーレーナ・マリア」(9 課)、「世界の児童労働をなくす少年たちの活動」(11 課)など、興味深いと同時に社会的にも関心を呼んでいる話題を取り上げている。
- ◎ 本文ページに質問項目 (QUIZ)、巻末に日本語による背景資料(「題材理解のために」)を設け、内容理解をより深める工夫をしている。

② 言語材料

ア 語彙の選択と配列

- ◎ 語彙は平易で活用度の高い基本的なものを無理なく学べるように、よく精選している。
- ◎ 新語は課末の練習問題には出さないようによく工夫している。

イ 文・文型・文法事項の選択と配列

- ◎ 学習指導要領に基づいて易から難へと配列するように、十分に工夫している。
- ◎ 学習事項の定着を図るため、反復練習ができるように、随所に工夫がされている。
- ◎ 各課の重要事項は本文中にマークして脚注で取り上げ、さらに課末の“Key Points”でまとめている。要所要所に復習事項をきめ細かく扱い、理解の定着を図れるよう工夫している。

ウ 文の長さとその難易による配列

- ◎ 文は、語数の少ない短い文から次第に長い文へと、学習者の負担にならず段階的に学習できるよう、よく工夫している。

エ 音声

- ◎ 2 箇所ある「つづり字と発音」でフォニックスの特徴的なルールを扱っている。
- ◎ 傍注に示された新出語には「発音記号」が示されている。I 巻で併記されていた「カナ表記」は巻末に移されており、学習者に応じた段階的な音声指導ができるよう配慮されている。

オ 言語の使用場面と働き

- ◎ 各課末の練習問題には必ずリスニングで本文理解を確認する活動“Comprehension Check”が設けてある。さらに、課末の“Let’s Talk!”では「言語の働き」を意識した対話練習が行えるよう工夫している。また、5 箇所にある“Let’s Communicate!”では、「言語の使用場面」を考慮した各技能を統合したコミュニケーション活動が行えるよう工夫されている。

2 分量・構成

- ◎ 各課の分量は、本文・練習問題ともに、易から難への配列に伴って段階的に増えるように配慮していて、4 単位で十分消化できる適切な量である。
- ◎ 各課の冒頭に置かれた“Warm-Up”は、本文に入る前に題材に関連する平易な質問に答えることを通して、題材への興味・関心呼び起こし、活気ある授業を行えるよう工夫している。

3 表現・表記・使用上の利点

- ◎ 大判(B5 判)の利点を活かし、ゆとりのある紙面構成となっている。
- ◎ 写真やイラストを含め、すべてカラーでありながらも、けばけばしさのない美しい色使いとなるよう配慮されており、学習者が意欲をもって生き生きと学べるよう工夫している。
- ◎ 印刷は鮮明で表紙や口絵も美しく、内容的にも英語学習の環境作りとしての役割を十分に果たしている。
- ◎ 活字は太めで適度に大きく、字間、行間も適切で読みやすい。
- ◎ 各課の本文では、“Key Points”で学習する言語材料を含んだ文に番号が付けられており、学習の便宜が図られている。
- ◎ 巻末の「題材理解のために」には日本語による各課の背景資料を掲載しており、学習者が題材内容に関心を深める工夫がされている。また、新出語や熟語等の発音記号と意味も示されており、辞書的な使い方もできるようになっている。
- ◎ 後見返し裏の「日本語になった英語」では、英語として通じないカタカナ語を示して注意を喚起している。また、後見返し裏の「いろいろな形容詞(反意語)」では、対になる形容詞をイラストから直感的に理解できるよう示しており、学習者に興味を持たせつつ、確かな理解に導く工夫がされている。